

収録文書・資料所蔵者別解説

室伏厚子氏所蔵文書・資料

湯河原町宮上

本目録は、『湯河原町史資料所在目録 第3集』（以下、第3集と略）に室伏美恵子氏の名で掲載された資料を確認調査して作成したものである。調査・目録作成に当たっては、第3集掲載の目録順に従い各冊子・綴に附属する資料を目録化した。文書・資料を含めて全体を編年とした。刊行物の著者・発行所等は、差出人の欄に記載した。

年代：明治37年（1904）から昭和54年（1979）に至る近代文書・資料。

主なものを内容別にみると、地震に関する資料、五所神社に関する資料、土肥村会関係、学校関係、農会関係資料に区分できる。大正12年9月から10月に土肥村役場が発行した「村の新聞」は、関東大震災直後における地域の様子を知る史料として貴重である。

主な文書・資料：「関東地方ノ多震ニ就テ大地震ノ淵源地方ニ就いて」（No.1）、「土肥村復興委員会の事務分担及び担当部署に対する意見聴取通知」（No.36）、「村の新聞」（No.147）以上地震関係、「村社五所神社大正十一年度収支決算表」（No.146）、「村社五所神社大正十二年度収支予算表」（No.145）、「村社五所神社大正十三、十五年度収支予算認可申請」（No.149）（No.99）、「村社五所神社境内震災害石垣復旧工事請書」（No.153）以上神社関係、「明治三十九年度土肥村經常費支払明細簿」（No.2）、「足柄下郡報 第八号」（No.15）、「大正十年土肥村会議事細則」、「大正十四年土肥村会議規則」（No.82）、ほか土肥村歳入出予算決算文書、以上村会関係、「学校教育の要諦（大正期）」（No.122）、「土肥尋常高等小学校増築工事仕様書」（No.131）、「土肥村立女子実業補修学校規程」（No.138）以上学校関係、「大正十三年度土肥村農会経費分賦収入方法」（No.42）、「大正十二年土肥村柑橘生産販売組合設立に就いて」（No.54）、「大正十三年町村農会技術員設置補助規程」（No.66）、「大正十三年足柄下郡農会委員会規則」（No.67）ほか農会歳入出予算決算文書、以上農会関係。

調査全タイトル数：212件、マイクロ撮影数212点（1,628コマ）

城願寺所蔵文書

湯河原町城堀

城願寺は、境内に樹齢800年余の国指定天然記念物ビャクシンの樹木をはじめ、嘉元2年（1304）と陰刻された石塔、土肥一族の墓所等が存在し、14世紀の南北朝期には、大鑑禅師清拙正澄の開山や義堂周信来訪由緒など古い歴史をもつ寺院である。戦国期に保善院住持七世太州梵守が再興して今日に至るといふ。山号を萬年山といい、現在は曹洞宗である。

今回調査した当寺院文書は、明治8年以降の近代文書である。『湯河原町史資料所在目録 第3集』（以下、第3集と略）に掲載された資料と追加資料とを加えて再調査し、目録を作成したものである。調査・目録作成は、第3集掲載の目録に従い年代順とした。

年代：明治8年（1876）から昭和42年（1967）に至る。

所蔵文書を見ると、明治8年湯河原から東京まで出かける時は、陸路以外に相模湾・東京湾の海路を利用していたこと、福浦港が出帆港であったこと、航行船舶に「報徳丸」が使用されていたこと等々を知ることができる。（No.1）

明治36年の城願寺庫裏、文殊堂、開山堂、山門の指図がある。

調査全タイトル数：60件、マイクロ撮影数60点（493コマ）

城堀区有文書

湯河原町城堀

当城堀区で所有する文書は、『湯河原町史資料所在目録 第3集』（以下、第3集と略）に「城堀区有資料」として掲載されている。本冊に収録した文書は、第3集収録分とは別個に保管されてきたようであり、本目録は、第3集と重複しない文書・絵図で構成されている。

区有文書の名称は、「城堀区有文書」と標記した。

「城堀区有文書」は、当館の調査時点にすでに幾つかの紙袋に入れて保管されてあった。袋には、「水車関係」、「水道関係」、「防犯協会」、「神社関係」、「消防」と上書きされていた。当公文書館の調査に於いては、この城堀区の分類を踏襲して、群として固まりをもつものについては分類名を与え、それ以外は、「古文書」という項目の中に取り込んで目録を作成した。

年代：明治9年（1876）から昭和38年（1963）に至る近代文書。

分類項目：1 古文書 2 区会 3 土地台帳 4 切図 5 簡易水道関係綴 6 水車営業

7 自作農創設 8 防犯協会 9 消防 10 教育 11 産土八幡神社

構成文書の主な内容

明治・大正期における石材採掘に関する文書が見られる。（分類1 古文書）区会では、昭和16年から31年迄の資料を収めるが、20年～21年が最も多く存在しており、「民間金属類特別回収実施要綱」、「決戦松根採集実施計画」、「国民義勇隊組織に関する件」等々は、戦時下と終戦直後における具体的な生活の有様を今に伝えてくれる貴重な史料である。教育では、大正10年に「土肥村城堀実業補習学校」の建設が行われ、建築に関する人夫控帳、建築工事設計書・設計図が伝えられている。また、昭和二十年湯河原町国民学校後援会予算・決算書・役員・加入者名簿、昭和二十年度中学校進学状況調査表が遺っている。教育に対する関心の高さを知ることができよう。

本冊と第3集とに分離した資料の存在例

一件書類文書として存在するものの、一部に欠番が生じている例。第3集と照合してみると、本冊「土地台帳」No.5の次ぎに第3集No.9が、本冊No.16の次ぎに第3集No.4が入ることが判明

する。また、年度で継続する文書も第3集に見られる。本冊「産土八幡神社」No.4は、第3集No.38の前年に当たる文書である。

調査全タイトル数：351件、マイクロ撮影数302点（2,307コマ）

高杉芳雄氏所蔵文書

湯河原町土肥

本目録は、『湯河原町史資料所在目録 第3集』（以下、第3集と略）に掲載された資料に追加資料を加えて再調査し目録を作成したものである。調査・目録作成に当たっては、第3集掲載の目録順に従い各冊子・綴に附属する資料を目録化した。目録の編集は、年代順である。

年代：大正4年（1914）から昭和12年（1937）に至る近代文書。

構成文書の内容は、大正4・5年における割栗石の採掘と搬出に関する願書、許可書と昭和8年から12年に至る畜漁場設置のための海面借用に関する願書及び契約書である。割栗石は、熱海線建設など鉄道敷地に利用された。

調査全タイトル数：21件、マイクロ撮影数18点（98コマ）

常盤定敏氏所蔵文書・資料

湯河原町鍛冶屋

当家文書・資料の目録は、『湯河原町史資料所在目録 第3集』（以下、『第3集』と略）に掲載された資料を確認調査して作成したものである。目録作成に当たっては、新たに提供頂いた文書・資料があるので『第3集』掲載の目録とは別に目録を作成した。刊行物（資料）の著者・発行所等は、差出人の欄に記載した。

年代：享和4（1804）から昭和31年（1956）に至る近世・近代文書・資料。

分類項目：1 文書Ⅰ 2 文書Ⅱ 3 私文書 4 版本・書籍 5 教科書

6 絵葉書 7 写本

構成文書の主な内容

明治42年～昭和9年「金銭覚帳」記載の蚕・柑橘類・野菜の値段は、当時の生活に占める割合が如何ほどであったかを知ることができる。また、同覚帳には大正12年9月11日の「十一時五十五分大地震」、同13年1月15日「夜朝大地震」の体験記事が見られる。また、近代教育制度が始まった時期の明治初年と考えられる「学齡児童の不就学者書上」（文書ⅡNo.40）がある。本書は、不就学理由も同時に記載されており、教育制度開始後間もない頃の地域現場の実態を

知る貴重な史料と考えられる。ほかに「元治2年伊勢参宮覚帳」（文書 I No.2）、「湯河原名所湯河原温泉・吉浜海岸」「吉浜小学校旧・新校舎・軽便鉄道」「神奈川県立原蚕種製造」（絵葉書No.2・3・4）等が揚げられる。

調査全タイトル数：524件、マイクロ撮影数249点（5,752コマ）

（目録解説執筆、主任専門員田島光男）

神奈川県古文書資料所在目録

第27集

編集発行 神奈川県立公文書館
〒241-0815 横浜市旭区中尾1-6-1
☎ (045) 364-4456、4463
FAX (045) 364-4459

発行日 平成22年3月30日

印刷所 中川印刷株式会社
〒231-0036 横浜市中区山田町7-1
☎ (045) 261-2101
FAX (045) 261-2105

